

平成 21 年度 環境報告書



＜編集方針＞

- ・ この報告書は、当社の環境に配慮した姿勢と、環境負荷の低減を図る活動の進捗状況を確認するとともに、ステークホルダーの皆様にお知らせすることをめざして編集し、発行しました。
- ・ 記載対象範囲は当社全事業所ですが、「工場における物質とエネルギーの流れ」および「環境目標および実績」については当社の全工場です。対象期間は平成21年4月から平成22年3月までです。
- ・ 編集に当たりましては、環境省が平成19年6月に発行した「環境報告ガイドライン」～持続可能な社会をめざして～（平成19年度版）を参考に作成しました。
- ・ とりまとめは、生産本部生産技術センター環境対策グループおよび経営企画部 IR・広報室が担当いたしました。

＜目次＞

企業理念・環境理念・環境方針・環境活動推進体制	2
会社概要・会社沿革	3
トップメッセージ	4
地球温暖化防止への取り組み	5
1. 工場での取り組み	
2. オフィスでの取り組み	
3. 営業活動での取り組み	
工場周辺の環境に対する取り組み	6
1. ボイラーばい煙の測定	
2. 臭い、騒音、振動の測定	
3. 排水浄化の取り組み	
環境教育	7
環境コミュニケーション	7
工場における物質とエネルギーの流れ・当社事業所のエネルギー使用量	8
原単位および旧基準原単位の算出について	9
環境目標および実績	9
1. CO ₂ 排出量原単位	
2. 廃棄物	
3. 水使用量	
その他の環境負荷データ	11
環境関連法規への違反、訴訟の有無	11

＜企業理念＞

焼津水産化学工業グループは、天然素材の持つ無限の可能性を追求し、“おいしさと健康”を通して豊かな生活に貢献します。

＜環境理念＞

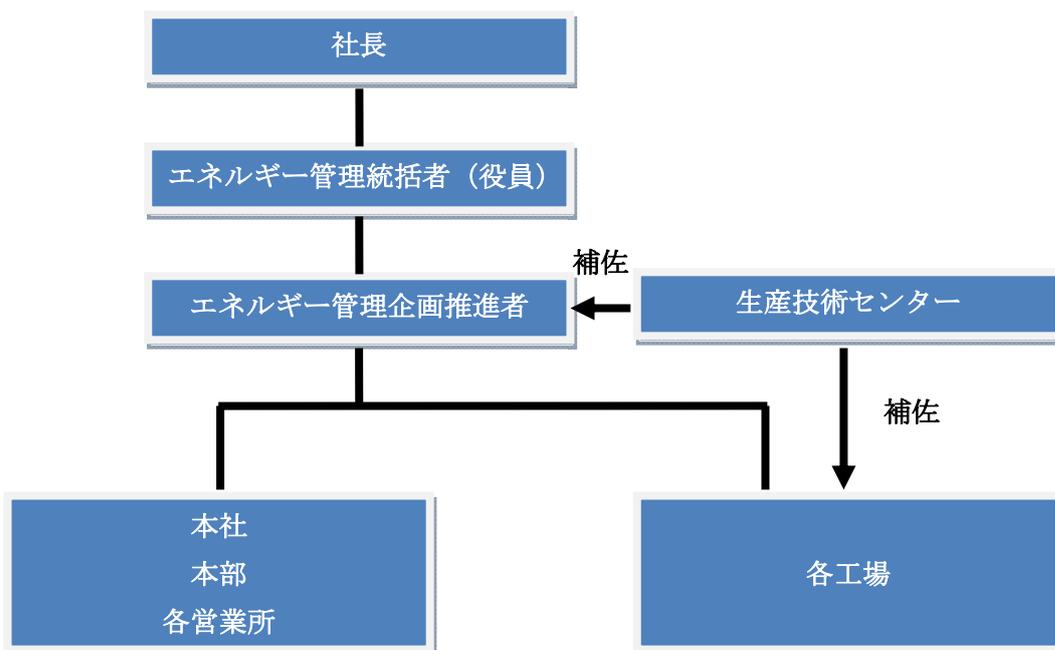
すべての企業活動において環境保全に努め、資源やエネルギーの有効活用など地球にやさしい取り組みを積極的に行います。

＜環境方針＞

- ・ 法令を順守するとともに、環境マネジメントシステムを構築し、自主的な目標を設定して環境問題に取り組み、持続的な改善に努めます。
- ・ すべての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物排出抑制、リサイクルを推進します。
- ・ 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- ・ 社員一人ひとりの環境教育に努め、環境を大切にする企業風土をつくります。
- ・ 環境情報を開示し、協力会社、社会とのコミュニケーションを推進します。

＜環境活動推進体制＞

当社のエネルギー管理体制は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（省エネ法）に基づき、社長をトップとした組織で運営・管理し、環境対策部門を傘下にもつ生産技術センターがエネルギー管理企画推進者と各工場を補佐しています。



＜会社概要＞

商号	焼津水産化学工業株式会社	
事業の内容	天然調味料、健康・機能性食品およびその他の食品製造販売	
事業所	本社	静岡県焼津市小川新町 5-8-13
	静岡本部	静岡県静岡市駿河区南町 11-1
	営業所	東京、大阪、名古屋、九州
	工場	焼津・団地（静岡県焼津市）、榛原（静岡県牧之原市） 大東（静岡県掛川市）
創業	業	昭和 34 年
資本金		36 億 1,764 万円
売上高		182 億円（平成 22 年 3 月期）
経常利益		15 億円（平成 22 年 3 月期）
従業員		270 名（平成 22 年 3 月末現在）



▲本社

＜会社沿革＞

当社は昭和 34 年に、魚の残渣から飼料・肥料の製造および肝油製造を目的に設立されました。まもなくエキス調味料の製造に方針を転換、天然調味料や乾燥食品へと製品の幅を広げていきました。

昭和 55 年以降には機能性素材の開発を本格的に開始、当時、肥料化するしか用途のなかったカニ殻からキチン、キトサンを精製し、販売を始めました。これを出発点にキチンオリゴ糖、N-アセチルグルコサミンを製造、この技術を生かして海洋性のアンセリン、コラーゲンなどの機能性新素材を世に送り出しています。

平成 13 年に東京証券取引所市場第 1 部へ上場、平成 21 年 3 月には創立 50 周年を迎えました。

現在、魚介類を原料とする天然調味料のリーディングカンパニーであり、健康や美容にかかわる機能性素材の研究・製造でも高い評価を得ています。当社は研究開発型企业としての道を、さらに一段と力強く前進します。



▲天然調味料

▲機能性素材

<トップメッセージ>

当社は、日本の食文化の発展に歩調を合わせ、半世紀にわたる成長を続けてまいりました。これは、当社事業が人間生活になくはない“食”の世界に足場を置き、人々のニーズを的確にとらえ、対応してきたことの証であると思っています。

私たちが天然素材から製造し販売する製品は、人々の基本的な要求である“おいしさと健康”に正面から向き合った結果生まれたものです。

今後も天然素材を原料に価値あるものづくりを続け、人々の豊かな生活に貢献するためには、社員一人一人が、地球の恵みに感謝し、豊かな発想のもとにこれを有効に生かしていくことが肝要です。

天然原料にこだわる以上、地球環境への配慮を怠るわけにはいきません。私たちは、事業活動に伴う環境負荷の問題を真剣に受け止め、従業員への環境教育、省エネルギー・省資源、廃棄物の削減、リサイクルの推進活動に努めています。

当社は平成 20 年に初めて環境報告書を発行し、工場における環境指標や取り組みを毎年報告してきました。今年からはさらに環境指標の計測範囲を広げるとともに工場以外の環境への取り組みを掲載して、全社における環境報告書を発行することと致しました。

平成 21 年度の環境目標に対する実績につきまして、CO₂排出量原単位※は目標に達しませんでした。これは、製造に多くのエネルギーが必要な、付加価値の高い粉末製品や機能性素材などの生産比率が、急激に上昇したことによるものです。CO₂排出量原単位の改善策として、平成 21 年 8 月、大東工場で使用しているボイラー燃料を、重油やLPGからCO₂排出量の少ない天然ガスに転換しましたが、原単位の上昇を抑えるには至りませんでした。廃棄物部門では廃プラスチックリサイクル率を除き目標を達成したものの、水使用量原単位は目標には至りませんでした。

平成 22 年度は、さらに継続的な取り組みを強化し、以下の目標を掲げて活動を推進してまいります。



代表取締役社長
坂井 和男

項目		平成 21 年度目標	平成 21 年度実績	平成 22 年度目標
CO ₂ 排出量原単位		対前年比 3%削減	対前年比 3%増加	対前年比 1%削減
廃棄物部門	全廃棄物のリサイクル率	98%以上	99.8%	99%以上
	廃プラスチックリサイクル率	99%以上	97.3%	
	単純焼却、埋立廃棄物量	5 t 以下	4 t	
水使用量原単位		25 m ³ /t 以下	38.5 m ³ /t	38 m ³ /t

※原単位とは製品トンあたりの使用量・排出量を表す

＜地球温暖化防止への取り組み＞

1. 工場での取り組み

・工場の燃料を天然ガスに切り替え

温室効果ガス削減を進めるため、生産活動に使用する燃料を、重油に比べ熱量あたりのCO₂排出量が少ない天然ガスに切り替えています。当社工場のうち、平成17年に焼津工場（静岡県焼津市）の燃料を切り替えたのに続き、平成21年8月に大東工場（掛川市）のボイラーに使用する燃料を、重油などから天然ガスに切り替えました。大東工場は、調味料、機能性食品素材、医療栄養食（流動食）など年間約9000tの製品を生産する当社最大の工場です。大東工場の燃料切り替えにより、平成20年度の換算で大東工場はCO₂を年間排出量の22%、年間1000t削減できることとなります。



▲大東工場に設置された天然ガス貯蔵基地

なお、平成21年度のCO₂排出量の実績は9ページに記載しています。

・工場におけるエネルギー削減

平成21年度は、工場内照明の水銀灯から蛍光灯への変更や人感センサー（不必要時には消灯する仕組み）取り付けのほか、蒸気配管の保温材施工などを随所に行いました。今後は事業所の外灯などを消費電力の少ないLED照明に順次変更する予定です。



▲従来の水銀灯 ▲設置された蛍光灯



▲蒸気配管の保温材施工前（左）と後（右）

2. オフィスでの取り組み

・オフィスのエネルギー削減

オフィスにおける省エネルギーを一層強化するために、環境省が推進する地球温暖化防止の国民運動「チャレンジ25」に企業参加登録しています。空調の電力削減のため、平成21年度は6月から9月までクールビズを実施し、12月から3月までウォームビズを実施しました。また、待機電力を削減するため、プラグの差し込み口ごとにON・OFF可能なスイッチ付きの省エネタップの導入を進めています。さらにオフィスの照明をLED照明に変え、省エネルギー・省資源を推進しています。



▲クールビズ啓発ポスター▲スイッチ付きタップ▲LED照明を導入した本社受付

3. 営業活動での取り組み

・エコカーの導入推進

低燃費、低排出ガスのエコカーの導入を積極的に進めています。平成 21 年 3 月末現在、営業などで使用している乗用車 33 台のうち 9 台がハイブリッド車です。



▲導入したハイブリッド車

<工場周辺の環境に対する取り組み>

1. ボイラーばい煙測定

ボイラーから発生する煙やすすには硫黄酸化物や窒素酸化物など大気汚染物質が含まれます。定期的にボイラーのばい煙を測定しています。



▲窒素酸化物・酸素濃度計測装置

2. 臭い、騒音、振動の測定

当社工場の最大の生産量を誇る大東工場では、工場敷地の境界で定期的に臭い、騒音、振動の測定をしています。測定結果を掛川市に報告し、平成 21 年度は問題のないことが確認されています。



▲振動の測定

▲騒音の測定

3. 排水浄化の取り組み

当社は全工場で、年間約 35 万 m³（東京ドーム約 3 分の 1 杯分）の水を排出しています。そのうち、焼津・団地工場（焼津市）は、共同の排水処理施設に処理を委託していますが、大東工場（掛川市）および榛原工場（牧之原市）には自社の設備で排水を浄化して河川に放流しています。

当社の処理施設では、有機物を微生物によって分解する「活性汚泥法」によって、約 2 日間かけて浄化しています。「活性汚泥法」は、有機物を分解する微生物を活性化することが重要です。当社は、空気を微細な穴に通すことで細かい泡を作る「超微細気泡散気装置」を使い、排水の中の酸素量を増やすことで微生物を活性化し、浄化効率を高めています。また、牡蠣の殻を使って浄化するシステムも取り入れています。これは、微生物が牡蠣の殻にある細かい穴に棲みつきやすい性質を利用したものです。

牡蠣の殻は長年使用していくうちに少しずつ溶けてしまうため、補充が必要になります。

平成 21 年度は排水処理の水質確保のために、牡蠣の殻を補充しました。

浄化された水は、日々担当者が状態を確認して放流します。また、定期的に pH（水素イオン濃度）、BOD（生物化学的酸素要求量）、SS（浮遊物質）、大腸菌群などの項目を法的な基準に応じて検査しています。さらに、浄化処理で発生する余分な汚泥は、協力業者に委託して肥料化し、自然のサイクルに戻しています。



▲大東工場の排水処理施設



▲浄化前

▲浄化後



▲牡蠣の殻を補充

<環境教育>

・従業員教育

環境に関わる従業員教育を定期的に行っています。平成 21 年度は外部から講師を招いた講習会を 2 回行い、製造部員を中心に延べ 52 人が参加しました。



▲環境に関する講習会

<環境コミュニケーション>

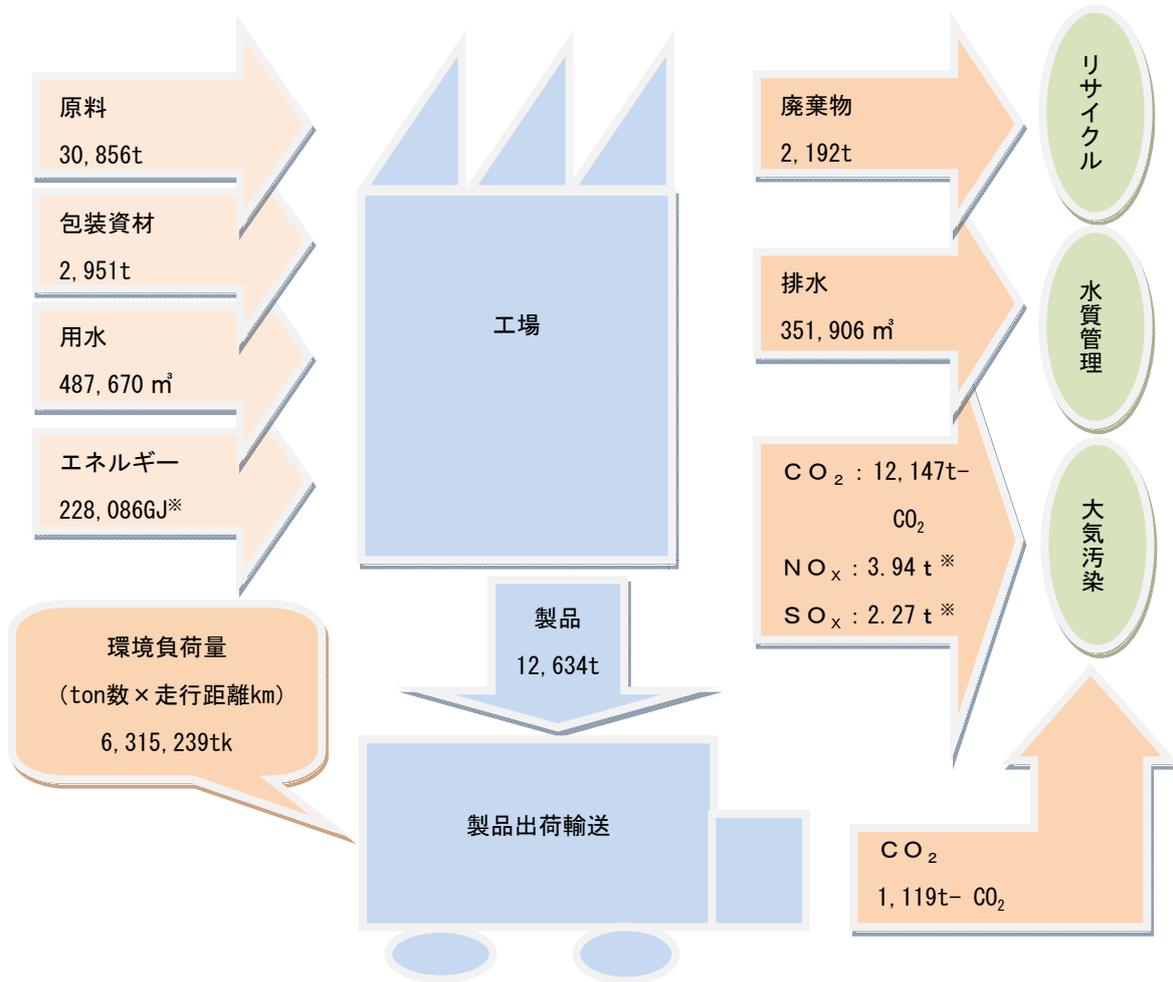
・地域清掃活動

本社のある焼津市で、定期的に地域清掃活動を実施しています。平成 21 年度は 3 回実施し、のべ 84 人の社員が参加しました。



▲海岸の清掃

＜工場における物質とエネルギーの流れ＞



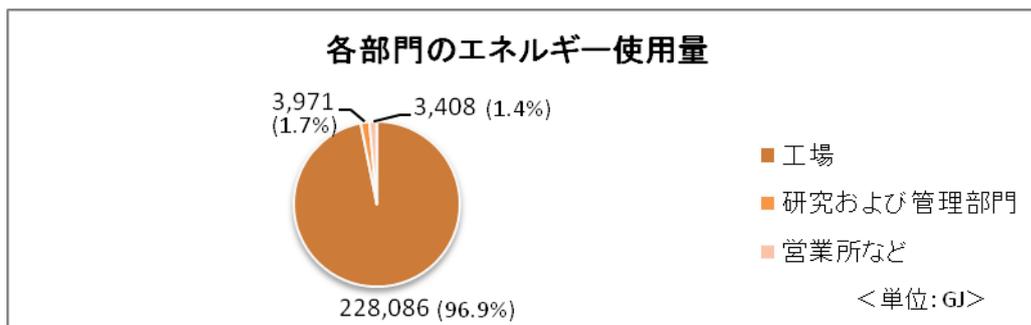
※ GJ（ギガジュール）：J × 10⁹。Jはエネルギーの単位。

NO_x：窒素酸化物。数値は実測値。

SO_x：硫黄酸化物。数値は全てSO₂として排出された場合の理論値。

＜当社全事業所のエネルギー使用量＞

当社全事業所の平成 21 年度のエネルギー使用量は 235,465GJ（ギガジュール）で、その 96.9%を工場が使用しています。



＜原単位および旧基準原単位の算出について＞

原単位とは製品トンあたりの使用量・排出量を表します。原単位算出に使用する製品生産量の計算において、平成20年度（昨年度）までは当社工場内で使用する半製品の生産量も加算していました。本報告書では、この原単位を“旧基準原単位”と記載します。平成19年度、平成20年度の原単位は、半製品の生産量を除いた生産量で再計算した値を記載しています。

＜環境目標及び実績＞

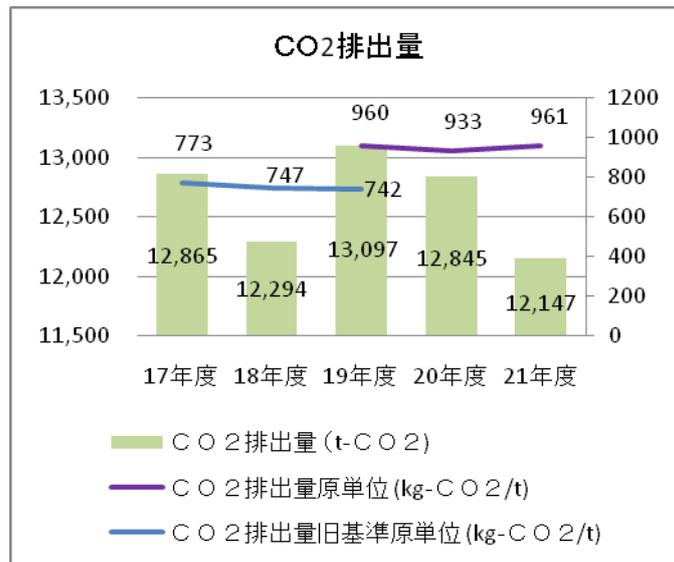
1. CO₂排出量原単位

目標 対前年比3%削減

実績 対前年比3%増加

評価 ★★☆☆☆

大東工場（掛川市）のボイラーに使用する燃料を重油などから天然ガスに切り替えたことから、CO₂排出量は5%減少しましたが、エネルギーを多く使う付加価値の高い製品の生産比率が大幅に上昇したため、原単位は3%増加となりました。

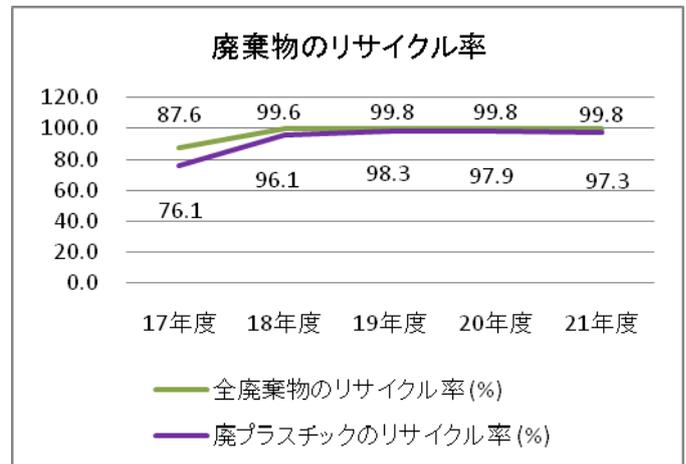


2. 廃棄物

- 目標 1)全廃棄物のリサイクル率を98%以上に維持
 2)廃プラスチックリサイクル率を99%以上に改善
 3)単純焼却、埋立処理量を5t以下に維持
- 実績 1)99.8%
 2)97.3%
 3)4t



廃棄物の単純焼却および埋立処理量、全廃棄物のリサイクル率は目標を達成しました。廃プラスチックリサイクル率は、汚れの激しい廃プラスチックを熱エネルギーとして回収しリサイクル出来る業者に委託するなどして改善に取り組みましたが、わずかに目標にとどきませんでした。



3. 水使用量

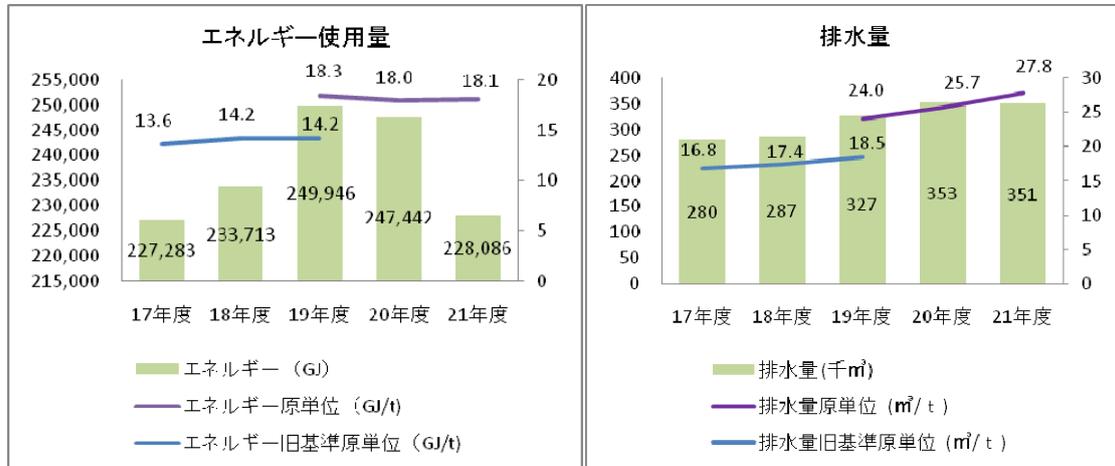
- 目標 水使用量原単位を25 m³/tに削減
- 実績 38.5 m³/t
- 評価 

冷却水を再度冷却して再利用するなどしましたが、多くの水を使用する付加価値の高い製品の生産比率が影響し、目標を達成することができませんでした。



※原単位、旧基準原単位の説明は9ページを参照ください。

＜その他の環境負荷データ＞



※原単位、旧基準原単位の説明は9ページを参照ください。

＜環境関連法規への違反、訴訟の有無＞

環境関連法規制等の順守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係当局により違反の指摘および訴訟は過去10年間ありません。

焼津水産化学工業株式会社

静岡本部：静岡県静岡市駿河区南町11-1 TEL054-202-6030

ウェブサイト <http://www.y SKF.jp/company/environment.html>

2010年9月15日発行

※表紙の写真：当社大東工場（掛川市）近くの海岸の風景（菊川河口）